毎月11日掲載

防災・減災のページ

むすび塾

巡回ワークショップ　@宮城・山元町花釜行政区

手段と経路 地域で共有

津波からの避難

第8回「むすび塾」は2日、宮城県山元町花釜行政区で開いた。東日本大震災の大津波は地域を襲ったが、既に250世帯が一時避難などから戻り、復興の街づくりが始まっている。将来の地震や津波への防災意識をどのように高め、実際の避難行動に反映させるか。減災・復興支援機構（東京）の木村拓郎理事長を進行役に、住民10人が活発に意見を交わした。

話し合いは「揺れたらすぐ避難」という震災の教訓を、再確認することから始まった。参加者が震災発生直後を振り返ると、大半が家の中の片付けや近所の人との会話に時間を費やしていた。

理由の一つは、津波の危険性の認識不足。地区住民の多くが、町の沿岸部を南北に走るJR常磐線の線路を津波は越えないと思い込んでいた。地域の標高が、比較的高いという誤解があった。

停電のためか、防災行政無線が機能しなかったとの証言もあり、避難開始はかなり遅れた。参加者は、潮流にのまれながらも、屋根に上り命拾いし、自宅の2階に駆け上がったり して難を逃れた体験を語った。

内陸部に避難した住民は、移動に車を使った。海寄りの地域から避難先の町役場に向かう国道6号周辺は車が集中し、動けなくなったという。一方で、地域が高台まで1～3キロの距離があるため、津波避難は今後も、車に頼らざるを得ないとの認識で一致した。

個人がばらばらに逃げる「津波てんでんこ」ではなく、要援護者の避難誘導をいかに両立させるか、というテーマも話し合った。

ある参加者は、近所のお年寄りを車に乗せようとして断られ、避難先から再び迎えに行こうとした、津波が来て断念した、などを振り返った。会場では「早逃げばあちゃん、今度、津波が来たら、車に乗っけて逃げるからね」と声がけする人もいた。

「町史に明治三陸大津波（1896年）などの被害が記されていながら、住民に認知されていなかった」と指摘する声もあった。参加者は震災発生当日の様子や被害を伝承する必要性を確認した。

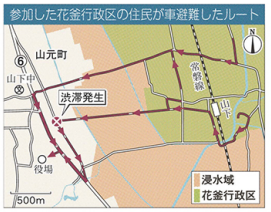
震災後、多くの住民が転出する中、地域に暮らす住民の交流を深めようと、月1回の「お茶飲み会」が開かれている。主催者の菊地慎一郎さん（65）は「100年ぐらいは語り継がないといけない」と呼び掛けた。

宮城・山元町と同町花釜行政区の被害

町によると、東日本大震災の津波による浸水面積は町全体の37%に当たる24平方キロに及んだ。死亡・行方不明は617人。全壊は2217棟に上る。

花釜行政区は町東部のJR山下駅周辺から沿岸にかけてのエリアで、約1000世帯の半分が津波で浸水した。死亡・行方不明は145人。922棟が全壊した。

死者・不明者617人　家屋全壊2217棟



町全体の37%　24平方キロ浸水

参加者は震災発生後の行動を振り返った後、車を使った避難や復興の街づくりを話し合った

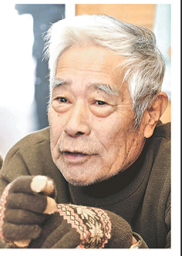
■むすび塾に参加して――宮城・山元町花釜行政区

【避難時の体験】6mの大津波としても、JR常磐線の線路を越えては来ないと安心しきっていた。道路が割れたのを見て車のエンジンをかけたら水が押し寄せてきた。30秒遅かったら流されていた。　＝岩佐道夫さん（78）

【参加して】みんながすぐに逃げなかったのは、危機を知るきっかけが無かったからだと思う。無線や広報車からの情報が届かなかったのであれば、確実に伝わる仕組みを作らないといけない。　＝小野和彦さん（50）

【避難時の体験】無線から大津波の情報が聞こえた。避難指示が出たことも知ったが、なぜか信じなかった。水が来たのを見て、慌てて自宅の2階に避難した。　＝柴田ひろさん（81）

【参加して】他人の被災体験はこれまで怖くて聞けなかった。あらためて防災を深く考える機会になった。堤防が壊れたと今、津波は威力が大きくなり、速くなる。素早い高台避難の重要性が高くなる。　＝菊地慎一郎さん（65）



【助け合いの記憶】足首まで水に浸かったが、間一髪で屋根に逃げ、自衛隊に救助された。避難所では毛布が足りず、段ボールでしのいでいると、見ず知らずの人が毛布を貸してくれた。ありがたかった。　＝津村和広さん（77）

「逃げる」教育が大切

■専門家から　東北大災害科学国際研究所教授（行動科学）　邑本俊亮さん

みなさんの話に出てきた「まさか」「安全なはず」「避難したくない」という気持ちは、人間が持っている当たり前の心理だ。被災地では震災後、地震や津波に対する危機意識が高まっている。いま地震が発生したら、震災前のような心理にはならないし、避難行動にもつながるはずだ。

ただ、遠く離れた地域の住民にとっては人ごとだ。時がたち、震災を体験していない次世代の人々であれば、なおさらだろう。だからこそ、いざという時には「逃げる」と判断させるような教育が大切になる。人の心について知ることも重要だ。貴重な体験談を今後の防災教育に生かしたい。

地域で車避難に取り組む際は訓練が大事だ。実際の動きを見なければ、どこでどれぐらい渋滞するかが読めないからだ。訓練した上で、地域の約束事をつくることが有効ではないか。